

# 写真で辿る 慶應看護 100年

## 「戦中～復興期」 1938～1949年

戦時中は、特令によって卒業が短縮となりましたが、専修科を設けるなどして看護教育を継続してきました。限られた時間と物資のなか、教材や看護用具に工夫をこらす教員のもと、学生は修練を重ね精一杯に看護を学びました。1945（昭和20）年5月24日には空襲により医学部・病院施設の6割を失うという大きなダメージを受けましたが、闇の中を看護婦、医師、学生がともに奮闘し、200余名の患者を救出しひとりの命も失うことなく守り抜きました。



1944年 担架訓練



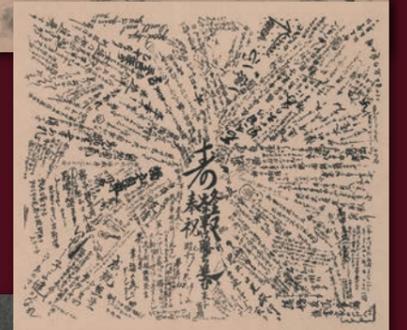
第23回生修学旅行 日光にて



病院本館調剤室



1942年  
ひなまつり



1942年 よせがき



1944年 戦中の院外救護



1944年 大学病院の救護訓練



1942年 臨床実習・小児科



弓道は正式な学科目



第23回生 合唱のつどい



1948年 病院新本館の玄関



1947年  
本館新築工事



1947年春 病院焼け跡



1942年  
西校舎



1942年  
東校舎



1948年 別館からみた新病棟



病院本館玄関 内部